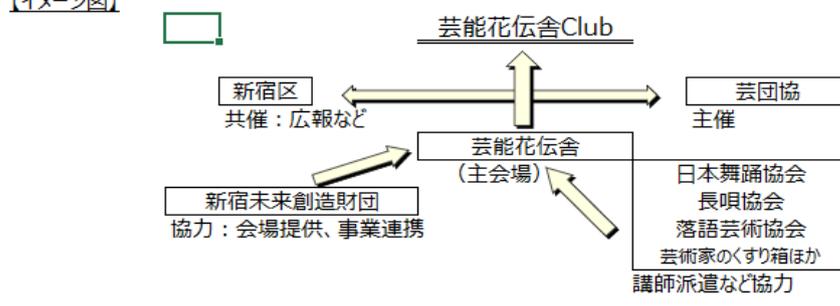


成果報告書

(地域文化倶楽部創設支援事業)

芸能花伝舎クラブ

所在地	東京都新宿区	設立年	2021年																
運営主体	公益社団法人日本芸能実演家団体協議会(芸団協)																		
事業目標	<p>長期的には、子どもから大人まで、伝統から現代まで多様な文化芸術を楽しむことができる総合的な文化芸術クラブを目指す。</p> <p>設立3年間で、子どもが伝統芸能を総合的に体験し学べる内容およびクラブ運営体制の確立を目指す。</p>																		
きっかけ	<p>芸団協は、「芸能が豊かな社会をつくる」という組織理念のもと、次代を担う子どもたちの健全な育成に寄与すべく、行政や地域と連携し子どもたちと芸能が接する多様な機会をつくってきた。芸能の体験や鑑賞機会は、1日もしくはごく短期間となることが多く、かねてより継続的かつ多ジャンルの体験ができる機会創出を模索していたことから、本事業に取り組むに至った。</p>																		
団体・組織等の連携	<p>【イメージ図】</p>  <p>【関係団体一覧】</p> <table border="1" data-bbox="554 1352 1453 1575"> <thead> <tr> <th>団体名</th> <th>本事業における関わり方</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>日本芸能実演家団体協議会</td> <td>事業の運営・主催責任</td> </tr> <tr> <td>新宿区</td> <td>共催／広報協力など</td> </tr> <tr> <td>新宿未来創造財団</td> <td>会場提供／事業連携など</td> </tr> <tr> <td>日本舞踊協会</td> <td>講師・委員の派遣</td> </tr> <tr> <td>長唄協会</td> <td>講師・委員の派遣／楽器の提供</td> </tr> <tr> <td>落語芸術協会</td> <td>講師・委員の派遣</td> </tr> <tr> <td>芸術家のくすり箱</td> <td>講師・委員の派遣</td> </tr> </tbody> </table>			団体名	本事業における関わり方	日本芸能実演家団体協議会	事業の運営・主催責任	新宿区	共催／広報協力など	新宿未来創造財団	会場提供／事業連携など	日本舞踊協会	講師・委員の派遣	長唄協会	講師・委員の派遣／楽器の提供	落語芸術協会	講師・委員の派遣	芸術家のくすり箱	講師・委員の派遣
団体名	本事業における関わり方																		
日本芸能実演家団体協議会	事業の運営・主催責任																		
新宿区	共催／広報協力など																		
新宿未来創造財団	会場提供／事業連携など																		
日本舞踊協会	講師・委員の派遣																		
長唄協会	講師・委員の派遣／楽器の提供																		
落語芸術協会	講師・委員の派遣																		
芸術家のくすり箱	講師・委員の派遣																		
活動場所	芸能花伝舎(東京都新宿区)																		
活動概要	<p>芸能花伝舎クラブは、公益社団法人日本芸能実演家団体協議会(芸団協)が、2021年より運営する文化クラブで、本事業の開始に合わせ設立された。前述の通り、複数回、複数ジャンルの体験によって、子どもたちの多様な興味関心を喚起しつつ、自らの「好き」に出会える可能性を広げる事も考慮し、「日本舞踊」「三味線」「落語」「身体理解」の4ジャンル、全17回のプログラムを組んだ。また、クラブでの稽古のみならず、本物の舞台の鑑賞機会を設け、親子で参加できる機会を設け、芸団協が実施する他の事業に参加できるよう各種案内を出すなど、17回の稽古という基本的な枠組みに留まらず、家族で伝統芸能との関わりを更に広げていけるよう工夫を施した。</p>																		

○本事業による成果

従来の活動の成果のみではなく、本事業を実施したことにより得られた成果について記載すること。(数値やグラフで示すものがあれば望ましい)

参加した児童の保護者アンケートによると、伝統芸能への関心が増した事、自分が好きなジャンルを見つけられた事、新しい場所に通い、新しい友達ができた事で、子どもたちの世界が広がった事などが記載されており、「伝統芸能」ジャンルの「クラブ活動」としての基本的な目標は達せられたと考える。

加えて、自ら浴衣を着られるようになり、自分で畳めるようになったことで、自信がつき、稽古で習得した挨拶や礼、正座などを含む礼儀作法が、子どもたちの日常生活面に良い変化を及ぼしていたり、生活面での積極性が出てきたことなど、「子どもたちの成長する姿」が見られたとの声も数多く寄せられた。

講師にとっても、他ジャンルと一緒に子どもたちの指導を行う機会は普段はない取り組みであり、今回の融合回プログラムは今後の事業展開にとっての可能性の端緒を開いたものとして評価することができる。

【継続意向調査】

・クラブに参加した動機:21人回答中17人が「伝統芸能の稽古をしたい又は続けたいから」と回答

・クラブを続けたいか:21人回答中「はい」が12人、「検討中」が7人

検討中が7名となったが、例えば中学校に進学しクラブの時間や曜日に間に合わない可能性がある等、継続はしたいが物理的な制約があるためという理由が多かった。

(中学校では花伝舎クラブに参加できるような部活動に入ると回答もあった)

○児童・生徒への指導に関する工夫

指導を行う上で独自で工夫していることについて記載すること。

伝統芸能への親和性や参加感をより高めることを狙い、浴衣の着用(自ら着る)を必須とした。また、複数ジャンルの芸能を体験できる特徴を生かし、三味線と日本舞踊については、単科のみならず、仲間の演奏で踊る「融合回」を設け、皆で協力しあって1つのものをつくる機会を作った。取り組みの初年度であったこともあり、講義時間外でも子どもたち同士や講師との関係をうまく保てるようサポートスタッフが目を配った。

○運営上の工夫

運営上、工夫している点を記載する。

・コロナ対策として検温、消毒、マスク着用、着替え前後に会場床の消毒

・安全に参加できる仕組みとして、帰宅ルート調査、毎回終了直後に生徒退出時間を保護者に連絡

・活動の様子は毎回終了直後にSNSで報告、保護者にはメールと写真を送付、家庭内での会話の機会を促すとともに、保護者の伝統芸能への関心を高めることにも配慮した。

○継続的な運営に関する課題・展望

活動場所、指導者、活動経費、教育機関や地域等との連携等、様々な観点からの課題と展望を記載する。

- ・近隣企業や区内芸術団体等と連携し、子どもたちの活動ジャンルの拡大を図るとともに、地域に点在する子供のための様々な取り組みの発信を新宿区へ働きかける。
- ・取り組みの実績をもとに、複数年をかけ新宿区内での複数箇所、面的展開をはかるべく、教育セクションや関係部局、団体との調整を進める。
- ・都内で地域文化クラブを実施する芸術協関係団体や足立区など、倶楽部団体が合同で取り組める活動を模索し、子供たちが様々な活動に興味関心を持てるような素地をつくる。
- ・持続的運営、どプログラム構成の多様化など目標達成のためのクラウドファンディングの活用検討

○令和5年度からの学校部活動の段階的な地域移行に関する方針・計画

上記の課題をどのように解決し取り組んでいくのか、方針や計画を記載する。

- ・弊団体は2005年に新宿区と文化協定を締結して以来、区が実施する様々な文化事業に協力するのみならず、教育委員会との関係では、全小学校での伝統芸能体験事業を複数年にわたり実施し、また教員向けの伝統芸能研修機会に協力するなど、長期にわたる関係構築を行ってきた。また、複数の伝統芸能関係協会組織を会員とする弊団体の強みを生かし、初年度の実績をもとに、学校現場のみならず、区教育委員会(プロジェクトチームや検討部会を含む)、地域文化施設や文化芸術諸団体と協働しながら、複数箇所、平日・週末開催等を含む多面的展開(具体的な学校の部活動等の状況の把握および教員の負担軽減の観点をふまえた上での地域移管)を進めていく。
- ・新宿区及び区教育委員会とは子供のための文化体験事業を開催している。その実績を踏まえ、新宿区から芸能花伝舎クラブの区民、学校への周知などに協力を得る。

※上記4点の記載の中に活動の画像を挿入してもよい。

※『[地域移行\(展開\)を進める際のポイントチェックリスト](#)』を参照すること。

参加者	対象:小学生(4-6年)及び中学生 参加人数:23名
募集方法	チラシ配布、ポスター掲示、新宿区の協力を得て区内公立小で配布、文化施設で配架、一部区内私立小で配布
指導者	各回につき、連携団体からの実演家1~8名
移動手段	徒歩、自転車、電車、保護者送迎
活動費用	25,000円(/17回活動分)
スケジュール	10月~3月開講 毎週火曜16:45~17:45
保険加入等	傷害補償保険(指導者・8名枠)、行事参加者の傷害危険担保契約(参加者・25名枠)

※文化庁ホームページ:地域文化倶楽部(仮称)の創設に向けた検討会議 [事例集](#)を参照

掲載URL

(https://www.bunka.go.jp/shinsei_boshu/kobo/pdf/92801101_09.pdf)

※それぞれの項目に掲載しているのはあくまで例示ですので、掲載しているもの以外の観点等で自由に記載していただいて結構です。ただし、どこかの項目に学校の働き改革(教員の負担軽減)を踏まえた観点の記述を必ず入れていただきますようお願いいたします。(本事業の最大の目的であるため)



最終日：発表終了後講師陣と記念撮影



三味線稽古風景



落語稽古風景



講座「からだで感じる伝統芸能」受講風景



舞踊と三味線の「融合」稽古風景



日本舞踊稽古風景